



⑥【権代南向地蔵(ごんだいみなみむきじぞう)】

- 鎌倉末期の応永年間(1400年代)の頃、この付近は沢波川河口であり、往来には渡し舟を使っていたようです。
- 潮の干満の差が激しく季節によっては海が荒れ、そのため犠牲者も多く出ました。またこの川の水を生活用水として使っていたところ水質が悪く、疫病が流行したようです。
- それぞれの霊を慰め安全を祈って出羽(でわ)の国の僧、瑞石禪師が地蔵様を建立したところ事故がなくなり、病氣も退散したと伝えられます。



⑤【荒人神社(あらひとじんじゃ)】 (住吉神社(すみよしじんじゃ)とも)

- 天平勝宝3年(751)厚東武忠公、石の玉殿を建立して住吉大神を奉斎すると伝わります。
- 祭神は底筒男命(そこつつおのみこと)、中筒男命(なかつつおのみこと)、表筒男命(うわつつおのみこと)です。
- 恵美須神社(漁業繁栄・商売繁盛)、祇園社(疫病退散・子どもの守神)の各合殿となっています。
- 本殿の左に慶応元年(1865)に造られた、神社の由来と「床波」の由来が彫られている立派な石碑があります。



④【西光寺(さいこうじ)】

- 山号を海印山という真宗のお寺で、開基は蓮正といわれます。元上野国の住人であるが大内義隆の時代に山口に来た僧です。
- 西光寺は床波に移る前には常盤池あたりにあり、元禄年間の常盤池構築の際に移転したといわれています。
- 床波の丘に本堂を建てたのは寛永元年(1624)と注進案に書かれています。

西岐波の昔と今



南方八幡宮のある台地など西岐波の色々なところから石器時代～縄文時代(今から約1万年～1500年前)に使ったと思われる石器が発見されました。西岐波に数ある遺跡は全国的にも有名です。

「床波」は、その昔宇佐八幡宮より帰る和氣清麻呂(わけのきよまる)が、荒れた海の上からはるか岸辺に見える住吉さまを見て祈ったところ、床の上を滑るように海の波が静かになったことが、由来のようです。

今からおよそ300年前までは、今の権代橋(権田橋)あたりは沢波川の河口で、現在の西岐波の中心である床波は芦(あし)の生える湿地でした。

そこで人々は池を作ったり川を掘ったり海岸を埋め立てたりして、田や畑を増やしました。

江戸時代の西岐波は、今の東岐波と合わせてひとつの村で「岐波村」と呼ばれていました。

明治12年(1879)に西岐波と東岐波に分かれ、吉敷郡「西岐波村」が生まれました。

大正時代の終わり頃から昭和の始めにかけて「宇部」は石炭で発展したため村から一躍市になり、昭和18年に西岐波村も宇部市に加わり「西岐波区」と呼ばれるようになりました。

昭和53年に常盤小学校が、平成元年に川上小学校が開校したので、西岐波小学校校区は「西岐波区」から現在のように変更されました。

平成18年の住居表示によって「床波」の地名が戻ってきました。